

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3171400694	
法人名	社会福祉法人みのり福祉会	
事業所名	北栄みのりグループホーム(風車の丘) まとめ	
所在地	鳥取県東伯郡北栄町東園219-1	
自己評価作成日	令和 3年 11月 10日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 未来
所在地	鳥取県倉吉市東仲町2571
訪問調査日	令和3年12月17日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・みのり福祉会法人理念は「地域を愛し、地域の皆様の幸せのために 心を込めて奉仕します」とあり、北栄みのりグループホームは地域の皆様のお役にたてる取り組みとして、北栄町高齢者の暮らしの手引きに「猫の手貸します」という内容で掲載し、介護保険外サービスとして買い物・掃除の支援をお手伝いしている。また、毎年「蚕」を卵から育てるようになって9年目になり、以前は仕事として行っておられた懐かしい作業を、現在は楽しみとして提供している。また地域の方々にも開放して立ち寄って見ていただいている。コロナ禍になり、面会が自由に出来ない中で、ご家族様とのつながりを絶たないようにiPadを導入しLINEのビデオ通話を使ってお顔を合わせながら県内外を問わず、ご家族様と定期的に面会され喜びと安心感を得ていただいている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・毎年「蚕」を卵から育て、利用者の楽しみとして取り組んでいる。  
 ・運営推進会議は書面開催が多かったが、書面でメンバーから意見を受け、双方向の意見交換ができるよう努めている。  
 ・「猫の手貸します」という取り組みでは、介護保険外サービスとして地域の高齢者に買い物や掃除などの支援を行っている。  
 ・タブレット端末を取り入れ通信アプリケーションの活用により、家族とリモートでの面会ができる。またホームでの様子を写真や動画で送り、利用者、家族ともに喜ばれている。  
 ・終末期の支援について、「看取りケアマニュアル」に沿って家族や関係者と連携し、チームで取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができる (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない		

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3171400694	
法人名	社会福祉法人みのり福祉会	
事業所名	北栄みのりグループホーム(コナンの里)	
所在地	鳥取県東伯郡北栄町東園219-1	
自己評価作成日	令和3年 12月 3日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 未来	
所在地	鳥取県倉吉市東仲町2571	
訪問調査日	令和3年12月17日	

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・出来るだけ全てのご利用者様が毎日外に出て、外気にふれて季節を感じたり、気分転換をしていたいっている。また、歩きたいご利用者様には、一緒に付き添い満足されるまで歩く事で希望を叶えるように努めている。・養蚕の時期には、(風車の丘)と協力しながら毎日桑の葉を探りに行き、朝・夕蚕の世話をして桑の葉を蚕にあげて世話をいただく事で懐かしさや充実感を感じていただいている。・令和3年度は2名のご利用者様を看取ることができた。9年という長い期間グループホームで過ごされたご利用者様を職員全員が自分の母のように大切に最期まで支援することができた。看護師をはじめ職員全員が看取りについて深く学び、グループホームでの看取りがこれまで以上にご利用者様、ご家族様の思いに寄り添った満足のいくものとなるよう努力している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

別紙参照
------

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができる (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない		

## 自己評価および外部評価結果

### ★努力している点

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1 (1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人内の5グループホーム共通理念に加え、実際に即した独自の理念を掲げ、毎朝申し送りの際に復唱し全職員で意識づけ、ご利用者様の支援に生かせるように努力している。</li> <li>・ご利用者様の状態に合わせて、定期的に理念を検討し変更している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>法人理念および法人内グループホーム共通理念のもと、実情に合わせた事業所独自の理念を掲げ、定期的に見直し変更している。</li> </ul>	理念を見直す機会を設けることは時として必要であるが、できるだけ持続的な理念とし、変更は慎重に行うよう望む。検討すべきは毎年の方針、目標ではないか。
2 (2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ケア会議、地域ネットワーク会議、「北栄安心見守りネット」に加入して、地域との連携を深めている。</li> <li>・認知症ケア向上連絡会に参加し、例年であれば他施設との交流を図り情報交換もしている。</li> <li>・例年なら地域で開催されるオレンジカフェにご利用者様と出かけているが、今年度は職員のみでお手伝いをした。</li> <li>・年2回実施される地域の神社掃除に参加し、出来ることで地域に貢献するよう努力している</li> </ul>	<p>町内会に所属し、地域の一員として日常的に交流している。</p> <p>★「猫の手貸します」という取り組みでは、介護保険外サービスとして地域の高齢者に買い物や掃除などの支援を行っている。</p> <p>また、例年は利用者と行っていた地域の認知症カフェ「オレンジカフェ」に、職員のみで手伝いに行っている。</p>	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「認知症サポートキャラバン」の研修を受けた職員が、包括の職員さんと地域にある小学校2校に出かけて行き、「認知症サポート養成講座」のお手伝いをしている。(コロナ感染対策をした上で、感染状況が最も落ち着いている時期に開催された)</li> </ul>		
4 (3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2か月に一回開催し、利用状況、リスクマネジメントを報告する中で提案や助言・情報をいただきケアの向上につなげている。今年度は書面開催が多かったが、ご意見をいただく欄を設けて返信をいただき改善に努めた。</li> <li>会議内容を職員全員に報告し取り組みについて話し合い、実践することによりサービス向上に努めている。</li> </ul>	<p>★コロナ禍のため書面開催が多かったが、事業所からの報告だけではなく、書面でメンバーから意見を受けるようにしている。受け取った意見には早急に対応しており、双方向の意見交換ができるよう努めている。</p>	
5 (4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北栄町包括の職員さんとは相談しやすい関係が築けており、施設運営 またご利用者様の支援に関する相談に親身になって下さり、事あるごとに相談し助言をいたしている。(成年後見人の手続きにも尽力していただいている)</li> </ul>	<p>「猫の手貸します」という取り組みでは、町や包括支援センターから支援の必要な地域高齢者の情報を得るなど、連絡を密に取り協力関係を築いている。</p>	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6 (5)	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玄関は夜間帯以外は施錠せず、いつでも出入りできるようにしている。帰宅願望のあるご利用者様は単独で外出されることを止めるのことをせず、一緒に歩く支援を行っている。</li> <li>・2か月～3か月おき、または必要があればその都度「身体拘束委員会」を開催し問題点を話し合い解決に向けて検討している。</li> <li>・定期的に高齢者虐待・身体拘束廃止についての研修会を開催している。</li> <li>・令和3年8月から、隣接するデイサービスと合同で「身体拘束・虐待防止委員会」を開催するとともに、外部の研修を受け復命することで職員間で情報共有している。</li> </ul>	<p>年に5回「身体拘束・虐待防止委員会」を開催し、問題点の検討や研修の復命を行っている。出かけようとする利用者がいれば、職員は一緒についていくなど、利用者一人ひとりの思いに寄り添い、日頃から身体拘束をしないケアの実践に心掛けている。</p>	
7	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所内の職員は北栄町の「高齢者虐待防止連絡協議会」の委員を10年継続している。会議には欠かさず出席して町内の虐待の実態、また施設内で虐待が起きないように常に注意を払うとともに、職員同士声をかけ合える関係を築き意識づけを行っている。</li> </ul>		
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在ホーム内に成年後見制度を利用されているご利用者様が3名おられ、後見人様は運営推進会議にも参加して下さっている。</li> <li>・令和2年度は、1名のご利用者様に成年後見人の手続きを行った。</li> <li>・毎年「権利擁護」の施設内研修・外部研修を受けており、職員全員で理解するよう努めている。</li> </ul>		
9	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・契約の際には、丁寧に重要事項説明書と契約書の説明をして納得していただいた上で契約を結んでいる。改定等があった場合は、ご家族様ご利用者様に文書を配布し説明した上で署名捺印をいただいている。</li> </ul>		
10 (6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年1回家族アンケートによりご意見を伺っている、いただいた意見や要望に誠意をもって回答し実行するように努めており、運営推進会議でも報告し、全家庭にアンケートの集計結果報告を郵送している。また、例年であれば、面会の際に近況を伝えて要望などをお聞きしているが、コロナ禍になってからは、運営推進会議の資料に「ご意見、ご要望」を記入する欄を設けて返信用封筒を同封し送付している。いただいたご意見は施設内で検討し、次の運営推進会議の際に報告している。</li> </ul>	<p>家族アンケートと満足度アンケートを実施している。また、例年であれば面会時に家族からの意見や要望を聞いているが、面会が難しくなったコロナ禍において、意見や要望を書面で受け取るようにしている。受け取った意見は具体的に検討し、報告するとともに運営に反映させている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・管理者はいつでも希望、要望を言いやすい雰囲気になるように努めている。毎年年途中に施設長による職員面談により一人ひとり別室で話す機会を設けて、希望や要望を含め話す時間を設けて働きやすい環境になるよう努めている。	施設長は年に1回の職員面談で一人ひとりの意見を聞く機会を設け、代表者へ書面で報告している。また、職員会議では運営に関する提案を検討し反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている	・毎年給与の見直しがなされており、一人ひとりに合わせた給与の支給がなされている。資格取得の際には、助成制度がある。個々に合わせた勤務体制ができるように配慮している。・年々職員の待遇が改善されており、資格を持つ職員について正職の枠が広がる事になり、令和3年度末より正職試験が実施される。向上心と意欲に繋がっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・代表者は度々ホームを訪れ職員の勤務状態を把握するよう努めている。 ・今年度は法人主催の研修がwebで定期的に開催され、全職員が受けられるよう配慮している。法人外部の研修は管理者とユニットリーダーが職員個々の能力に応じ受けられるようにしている。 ・今年度はwebで受けられる研修が多く、全職員が能力・担当業務に応じた研修を受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・例年は認知症ケア向上連絡会で同業者が集まり、運動会・事例検討会・勉強会を行っている。 ・毎年外部のグループホームと相互研修を行い情報交換し、それぞれの良いところを取り入れながら質の向上を図っている。 ・コロナ禍では同業者と電話で連絡を取り合い、情報交換し交流を続けている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居前から生活習慣・嗜好等を入念にアセスメントを行い、入居当初は特に関わりを多く持つようにして、ニーズを把握し信頼関係を深めるように努めている。また他の利用者との関わりを持つように仲立ちをして、グループホームが過ごしやすい所となる様に配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・契約時には家族の想いや困り事も十分に聴くようにして、想いに添えるように努力している。面会時にもできるだけ安心していただけるような言葉で近況を伝えている。また必要に応じて電話連絡し家族の希望を聴き対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・本人や家族の想いを最優先として、最善と思われる支援につなげるように努力している。自宅での生活が困難であり、入居を急いでおられる場合は隣接するデイサービスの宿泊サービスを利用していただきグループホーム入居につなげる場合もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・職員は、ご利用者様の身体と精神状態をしっかりと把握し、生活する中で、調理・洗濯・掃除・食器洗い・畠仕事・手作業などの得意な事、持つておられる技術を発揮できるように配慮し、一緒に行うことにより良い関係を築くことができるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・ご家族とご利用者様・担当職員ができるだけ連絡を取る機会をもてるよう努め、例年であれば通院・馴染みの美容院・日中の帰宅など、ご家族様の負担にならないよう配慮しながら同行していただいている。職員はご家族様が気軽にホームに立ち寄ったり、行事にも参加しやすい雰囲気つくりに勤めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・入居前調査や、本人と対話する中で知り得た情報を基に、墓参りや馴染みの場所を訪れたりしている。 ・例年であれば親族の方はもとより近所の方や友人の方を温かく迎え、訪問しやすい雰囲気つくりに努め関係の継続ができるようにしている。通院の機会に帰りに自宅に立ち寄ったり、気になる場所に足を延ばすなどの支援をしている。	★感染予防のため関係継続の支援が難しい状況であったが、タブレット端末を取り入れ通信アプリケーションの活用により、リモートでの面会ができるようになった。ホームでの様子を写真や動画で送り、馴染みの関係が途切れないよう努めている。また、墓参りや馴染みの場へ立ち寄ったり、地域の理髪店を利用したりすることも再開されつつある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・気の合うご利用者様が会話や手作業と一緒にできるようにテーブルやソファの位置に配慮したり、時には職員が仲立ちをしてご利用者様同士の関係作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・長期入院で退居されたご利用者様でも、退院される際には連絡をいただき他の事業所を含め円滑な介護サービスへの移行を心がけている。必要に応じていつでも相談に応じる旨を伝えており、当ホームへ再入居されたご利用者様も多くおられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・ご利用者様と共に過ごし談笑する中で、一人ひとりの話に傾聴し思いをくみ取る様にしている。耳の遠いご利用者様には筆談やジェスチャーで意思の疎通を図っている。意思疎通が困難な場合でも、ご家族様と話し合ったり、日々の生活の中でご利用者様の表情や様子から思いをくみ取るようにしている。	利用者一人ひとりの話を傾聴するとともに、筆談やジェスチャー、家族との話し合いをもつて、思いを汲み取るよう努めている。誕生日には「願いをかなえる日」として本人の希望することをできる限り叶えるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居前に本人様やご家族様から生活歴、嗜好、得意な事や趣味等を聞き取り職員全員で把握している。入居後も会話する中で知り得た生活歴等を記録し、日々の支援が充実したものになるように努めている。居室内には馴染みの使い慣れた物品を置いていただき、ご利用者様にとつて落ち着ける環境になるように配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・ご利用者様の生活リズムを把握し、ご本人様のペースで生活していただくようにしている。それぞれの趣味や特技を發揮できるように配慮している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・担当者は、他の介護職員の意見を取り入れながらアセスメントを作成し、計画作成担当者がプランに盛り込んでいる。また毎月、日課表に評価とモニタリングを記録し次の支援につなげている。本人様の心身の状態を見極め、ご家族様や主治医と連携を取りながら、必要に添った支援ができるようにプランに繋げ、介護者が統一した支援ができるように努めている。必要に応じて途中で介護計画の見直しを行い適切な支援を提供している。	6ヶ月に一度、担当者は他職員の意見を取り入れアセスメントを作成し、家族や主治医と話し合い、反映した介護計画を作成している。毎月、評価とモニタリングを行い次の支援につなげている。	計画作成には電子化を進めているが、日々の記録や評価は手書きのため連動には至っていない。また電子化を進めるにあたって職員の習得が課題である。記録の効率化を図るために、どこまで電子化していくのか検討してほしい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日課表を基に毎月のモニタリングに反映させ、次のプランにつなげている。水分・排泄・食事量・バイタル・日中の様子・受診記録・ケアプランの実施状況が一目でわかりやすいように工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・外出支援や自宅への一時帰宅の付き添い、墓参り、買い物など本人様の希望に添えるような支援に心がけている。誕生日には「願いを叶える日」として、あらかじめ会話の中でご本人様の希望を聞き、可能な限り叶えている。行きつけの病院への通院支援・入院中の必要な支援、希望に応じて看取りの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・通常であれば、入居前から行きつけだった美容院や眼鏡店、化粧品店に出かけたり、施設へ来所していただきお気に入りを継続できるようにしている。また、毎月開催されるオレンジカフェに出かけることにより、知人と会い会話をしたり、同じ町内のグループホーム収穫祭に出かけて交流と収穫の喜びを味わっていただいている。町で開催される行事に参加することにより、馴染みの関係の継続につなげている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・在宅時から地元の病院に受診や、当事業所の協力病院による定期往診・臨時受診を受けて体調管理できるように支援している。また、地元の病院にかかるおられたご利用者様が通院困難になられた際には、往診に来ていただけるように主治医と連携を図っている。その都度ご家族様への受診相談と報告、また毎月おたよりで受診状況を報告している。	本人・家族の希望する病院に受診できるよう支援している。また協力病院による定期往診、臨時受診により体調管理に努めている。通院が困難な場合は、往診してもらえるよう主治医と連携を図っている。受診結果はその都度家族へ報告するとともに、毎月おたよりで受診状況を伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・令和2年より、グループホームに看護師を配置し、毎朝ご利用者様の情報を伝えて看護師は主治医と連絡を取り合いながら必要な医療を受けることができるよう配慮している。看護師が休日の場合は併設しているデイサービスの看護師と連絡を密にしており、小さな変化にも迅速に対応できるようにしている。必要に応じて訪問看護と契約し継続して医療処置を受け、相談もしている。その都度 医療機関を受診・往診で対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院の際は洗濯、買い物などの支援を行いご家族様の負担軽減や安心感を得られるようにしている。病院との連携を密にとり精神的な不安を軽くする為に出来るだけ早期に退院し、通院治療が可能になる様に医師との連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所できることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・主治医が終末期と判断された時点で、看護師・ご家族様とケアマネで話し合いの場を持ち、本人様がお元気な頃にどのような終末期を望んでおられたか、またご家族様が望まれる終末期を聞きとり施設内での看取りを希望される場合は速やかに「看取りケアマニュアル」に沿い、担当者がカンファレンスを開催してアセスメントに沿ってプランを作成して支援にあたっている。・状態により、ご家族様に付き添い泊まつていただく等の対応も行っている。	★利用時にリスクの説明、急変時の対応について確認をしている。現在4人の終末期の支援をしており、「看取りケアマニュアル」に沿って家族や関係者と連携しチームで取り組んでいる。家族が付き添いのできる対応も行っているが、現在は感染対策により行っていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、全職員が消防署の救命救急、AEDの講習を受けています。緊急時の対応方法として全職員が学んでおり、事故発生時に備えている。年に2回の通報訓練・避難訓練と年1回夜間訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・火災、水害と避難訓練を実際にご利用者様と一緒に避難を実践した。ご家族様や地域の方にも連絡網に加わっていただき、通報訓練にも参加していただいて災害時に備えている。火災時の避難誘導の協力体制について、同じ町内にあるグループホームと協力協定を取り交わし、災害時には協力し合えるように居室前にはご利用者様の身体状態がわかるように、どちらの施設が避難の協力に行っても分かるように同じ表示をしている。</li> <li>・今年度はwebで机上訓練に参加した</li> </ul>	年2回、消防署の立ち合いで利用者と一緒に避難訓練を実施している。連絡網には家族や地域の方も加えている。避難時に利用者の身体状態が分かるよう、各居室前に協力関係のあるグループホームと統一した表示をしている。3日分の備蓄品を整備している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・排泄に関する事、入浴時など特にプライバシーや尊厳を尊重した声掛けや対応をするように注意している。法人で作成した「接遇マニュアル」を参考に毎月の目標を玄関・各ユニットに掲げ意識づけをしている。職員間でもご利用者様の生活歴を理解したうえで一人ひとりに合わせた声掛けや対応に配慮している。</li> </ul>	法人が定めた接遇月間目標を玄関と各ユニットに掲げ、一人ひとりの生活歴を考慮し、尊重した声掛けや対応を心がけている。終末期の利用者は日常はリビングで対応しているが、プライバシー保護の為、カーテンで仕切っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入浴の希望や外出、更衣時の衣服選びや食べ物の好みなど小さなことでも希望を尋ねることにより、押しつけず自己決定できるように努めている。また、毎朝、飲み物の希望を尋ねて嗜好に会った飲み物を提供している。</li> </ul>		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その日の気分や体調を把握し、一人ひとりのペースに合わせた生活ができるように配慮しながら声掛けしている。食事や入浴の頻度や時間も一人ひとりの希望に添えるように努力している。</li> </ul>		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅時に本人様が気に入っていた衣服を持参していただいている、その中から季節や行事、その日にあわせて出来るだけご本人様の意向で決めている。</li> <li>本人様の好みで、マニキュアやお化粧をされている方もおられる。自己決定できないご利用者様については職員が一緒に考えている。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・一人ひとりの嗜好に合わせてメニューに嫌いなものがいる時は別メニューを作り提供している。平成30年度から、ホワイトボードに当日のメニューを記入して、食事が楽しみの一つになるようにしている。・食事の下準備や盛り付け、お盆拭きや下膳等ご利用者様の出来る事に合わせて一緒に食事の準備片付けをしている。・行事の時は、カラフルなお弁当メニューの中から食べたいものを選んでいただきて楽しみの一つになっている。例年であれば少人数づつで外食に出かけ、お店で食べる楽しみを提供している。・誕生日の願いを叶える為に希望を尋ねると好きな食べ物を言われる場合は、職員が選んで購入、または作るなどして喜んでいただけるように誕生日当日に提供している。	一人ひとりの嗜好に合わせて提供している。食事の準備や片付けなど、利用者のできる事は一緒にしている。誕生日の「願いをかなえる日」に食べたい物の希望がある場合は、提供することで利用者の喜びとなっている。感染症対策のため食席を離してパーテーションを設置し、一人ひとりに合う場所になるよう配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・入居時にパン食・米飯食の好みを聞き取りできるだけ好みに合わせた食事内容にしている。食事量や本人様に必要な水分摂取量を把握し、水分摂取量が少ない方には内容や方法を個人に合わせて工夫し、食事量が減っている方には好物の食べ物を用意したりその時々に合わせて対応している。また栄養士の資格をもった職員を中心に献立を立てている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・口腔ケアの介助が必要な方、声掛けをして自分でされる方もあり一人ひとりに合わせた対応をして、毎食後職員が確認を行っている。・介助の必要な方には、出来ないところを手伝うようにしている。必要に応じてかかりつけの歯科に行くか協力歯科医院による訪問治療をしていただいている。・毎月、歯の掃除に歯科医院へ行かれるご利用者様もおられる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・一人ひとりの排泄パターンを把握して、様子を見ながら個々に合わせて声掛けとトイレ案内を行い感染症を防ぐためにも出来るだけトイレでの排泄を促している。ご自分でトイレへ行かれるご利用者様にはさりげなく見守りをしている。ほぼ寝たきりの方も、排便の日数をみながらトイレでの排泄ができるよう二人介助で無理のないようにトイレ案内を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛けとトイレ案内を行っている。自分でトイレへ行く利用者には、さりげなく見守りをしている。重度の利用者には、トイレでの排便ができるようリフトを利用して二人介助で支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・毎日の排泄チェックで排便の把握をして主治医と連携をとりながら便秘予防に努めている。階段や廊下を利用して運動の機会を増やしている。 ・気候の良い季節には出来る限り戸外に散歩に出て運動できるように促している。毎日朝食にバナナヨーグルトを提供したり、食物繊維の多い食材や種類を豊富にするなどしてバランスの良い食事の提供に努めている。また十分な水分量を摂取していただくために嗜好に合わせた飲み物や温度に配慮して提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・午前中の入浴を好まれる方、仲良しの人と二人での入浴なら可能な方、毎日入浴したい方など一人ひとりの希望に添って対応をするように努めている。体調の具合で入浴に気が向かない方には足浴や清拭で爽快感を味わっていただいている。寝たきりの方にも入浴の爽快感を味わっていただきたく、ルームシャンプーで洗髪したり、併設するデイサービスの機械浴を利用している。	一人ひとりの希望に沿った入浴方法を実施している。安全に浴槽へ入れるよう、回転バスボードを設置している。重度の利用者にはルームシャンプーで洗髪したり、併設するデイサービスの機械浴を利用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・日中は活動的に過ごしていただけるように声掛けして、出来るだけ外の空気にふれたり太陽にあたり、活動を多くして夜間にゆっくり休むことができるよう促している。居室で休まれる際には、室温や湿度に注意を払っている。夜間帯はご利用者様の希望に合わせて照明の明るさも調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・主に看護師が薬の管理を行っており、薬の内容とご利用者様の状態を把握して必要に応じて主治医に連絡を取り調整等を行っている。また、職員全員が内容を把握するように努めている。受診時にはご利用者様の状態を主治医に報告して状態に合わせて薬を調節、変更していただいている。服薬時は2名の職員とご本人様にも確認していただいた上で確実に飲みこまれるまで見守っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・洗濯干し、洗濯物たたみを数人のご利用者様で会話しながら一緒にされたり、お盆拭き、調理下準備、読書、歌、畳仕事、塗り絵、散歩など一人ひとりの希望や得意分野に合わせた作業をしていただいている。 ・例年であれば出来た作品を地域や法人内の作品展に出品して、作品展当日には見に行き楽しみの一つになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・家族様と定期的に外出される方もある。また天候や気温、体調に合わせてご本人様の希望を聞いて散歩に行ったり、地元の道の駅に野菜を買に行く支援をしている。希望により墓参り、帰宅、必要があれば買い物や選挙など可能な限り早い対応を心がけている。体調により遠出が難しいご利用者様には近い場所でも気分転換になる場所を選び出かけている。・ご家族様の希望により、毎月2回 自宅に帰り一泊されるご利用者様もおられる。	希望にそって外出できるよう努めているが、感染症予防により遠方へ外出する機会は減っている。そのためホームの周りを散歩する機会が増えており、1日1回は外の空気に触れるよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を手持したり使えるように支援している	・ご本人様やご家族様の希望に合わせて金銭の管理が出来る方は所持されている。・管理が難しい方はホームの金庫で預かり買い物の際にご本人様に渡して品選びから支払いまで見守りさせていただき買い物をしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話は自由に使用していただいている。希望に応じ電話をかける支援をしている。お便りや届け物があった際は、電話や手紙でのお礼の手伝いをしている。届いたお便りと一緒に整理したり、返事を書くお手伝いや送付の支援を行っている。年末になると、毎年年賀状を書かれるご利用者様もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・浴室、トイレには温度・湿度計を設置して施設内の温度の違いが5度以上にならないように冷暖房の調節を行いヒートショックにならない環境つくりに心がけている。・玄関・食堂・廊下・階段には季節感のある装飾や花を飾ったり、ご利用者様の作品や写真を飾り温かい雰囲気作りをしている。・居室の場所がわかりにくいご利用者様には、目印になる物を掲げるなどの工夫をしている。	共用空間には、利用者の作品や写真、季節感のある装飾や花を飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。温度・湿度計を設置し、冷暖房や加湿器などで調整をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いで過ごせるような居場所の工夫をしている	・デイルームには、テーブル席とソファーの場所を設けており、自由に利用できるようにしている。ご家族様や仲の良いご利用者様と自由にくつろいだり、一人でもゆっくり過ごすことができるスペース作りなどの配慮をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居時からご家族様に協力していただき、ご利用者様が気兼ねなくゆっくり過ごせるように馴染みの物を持ち込んでいただくことで、使いやすく居心地の良い場所になるように配慮している。 ・入居後でも必要があれば、ご家族様にお願いして写真やお気に入りの服等を持参していただくこともある。 ・自宅の窓から見る景色と同じ方向の部屋を希望されるご利用者様には、居室が空き次第移動していただく配慮をしている。	入居時および入居後に馴染みの物を持ち込んで、居心地よく過ごせるように配慮している。窓から見える外の景色もよく、利用者の安らぎとなっている。	居室の表札がないことについては、利用者それぞれの希望や特性を踏まえ、柔軟な対応ができるよう検討してほしい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・通路やトイレ、階段の手すりを活用して自立歩行、移動の支援をしている。車椅子や歩行器が使用できるようにバリアフリーになっている。入浴の際は自立度に合った入浴チェア、踏み台を選んで使用していただいている。 ・一人での入浴を希望されるご利用者様には、滑って転倒などないように十分に配慮して滑り止めのマットや足ふきマットを敷き時間を見て様子を伺うなどして安全に配慮している。		

## 目標達成計画

事業所名 北栄みのりグループホーム

作成日：令和4年1月26日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなるよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	(1)	事業所独自の理念を隔年で検討し変更していたが、毎年掲げる方針や目標の検討に重点を置き事業所の理念の変更は慎重に行う。	北栄みのりグループホームとしての良さ、特徴を踏まえた持続的な独自の理念を掲げ継続する。	令和4年1月～3月に開催するフロア会議で事業所の理念について再検討し、令和4年度から継続して掲げ全職員が念頭に置き支援にあたる。	2ヶ月
2	(20)	グループホームは家庭的な環境でありながら集団生活の場でもある。居室入口に表札などがないため、ご自分の居室が分かりにくい事と愛着をもてる場所になるような工夫が必要がある。	ご利用者様にが居室に入室される時点で安心してゆっくり過ごすことのできる場所になるよう、入口に表札等を掲げてご利用者様がご自分の部屋に愛着をもっていただけ るような工夫を検討する。	・担当者がご利用者様の希望を尋ねて一緒に検討する。 ・ご家族様に検討内容を報告し、ご意見を踏まえて表札等を作成またはご自宅から馴染みの物を持参していただき居室入口に掲げて、安心感と居心地の良い場所になるよう工夫する。	2ヶ月
3	(10)	計画作成は電子化を進めているが、日々の記録や評価は手書きのため連動していない。また電子化を進めるにあたって職員の習得、また記録の効率化を図るために、どこまで電子化していくか検討する。	介護記録ソフトの導入を検討する	日々の記録等を電子化するため、ソフトウェア会社の講師を招いて説明会を行い、介護記録ソフトを導入する動きを進めている。また、導入に際しては補助金等の活用も検討していることから、国等の動向も確認しながら慎重に進めていく。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月